

科目名	実習・演習 2						年度	2024	
英語科目名							学期	後期	
学科・学年	音響芸術科レコーディングエンジニアリング専攻 1年次	必/選	必	時間数	180	単位数	6	種別※	実習
担当教員				教員の実務経験		実務経験の職種			
【科目の目的】 スタジオワークにおける音響機器やProToolsの操作を理解し適切に行い、問題なく録音業務を行えることを目的とする。									
【科目の概要】 スタジオシステムを理解し、作品づくりに向けた基本操作を学びます。									
【到達目標】 A：アナログミキサーの仕組みを理解し、適切に扱える B：スタジオワークにおけるProToolsの操作を理解し、適切に扱える C：マイクロフォンの構造を理解し、適切に扱える D：多種多様な楽器や音楽ジャンルを理解し、適切に録音・ミキシングを行うことができる E：アーティストなどとコミュニケーションを取り、スタジオワークを行える									
【授業の注意点】 音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	アナログミキサーの仕組みを完全に理解し、適切に扱える。	アナログミキサーの仕組みを一定程度理解し、適切に扱える。	アナログミキサーの仕組みを少しだけ理解し、一定程度扱える。	アナログミキサーの仕組みを少しだけ理解しているが、適切に扱えない。	アナログミキサーの仕組みを理解出来ず、適切に扱えない。				
到達目標 B	スタジオワークにおけるProToolsの操作を完全に理解し、適切に扱える。	スタジオワークにおけるProToolsの操作を一定程度理解し、適切に扱える。	スタジオワークにおけるProToolsの操作を少しだけ理解し、一定程度扱える。	スタジオワークにおけるProToolsの操作を少しだけ理解しているが、適切に扱えない。	スタジオワークにおけるProToolsの操作を理解出来ず、適切に扱えない。				
到達目標 C	マイクロフォンの構造を完全に理解し、適切に扱える。	マイクロフォンの構造を一定程度理解し、適切に扱える。	マイクロフォンの構造を少しだけ理解し、一定程度扱える。	マイクロフォンの構造を少しだけ理解しているが、適切に扱えない。	マイクロフォンの構造を理解出来ず、適切に扱えない。				
到達目標 D	多種多様な楽器や音楽ジャンルを完全に理解し、適切に録音・ミキシングを行うことができる。	多種多様な楽器や音楽ジャンルを一定程度理解し、適切に録音・ミキシングを行うことができる。	多種多様な楽器や音楽ジャンルを少しだけ理解し、適切に録音・ミキシングを行うことができる。	多種多様な楽器や音楽ジャンルを少しだけ理解しているが、適切に録音・ミキシングを行えない。	多種多様な楽器や音楽ジャンルを理解出来ず、適切に録音・ミキシングを行えない。				
到達目標 E	アーティストなどとコミュニケーションを取り、スタジオワークを円滑に行える。	アーティストなどとコミュニケーションを取り、スタジオワークをやや円滑に行える。	アーティストなどとコミュニケーションを少しだけ取れ、スタジオワークをやや円滑に行える。	アーティストなどと少しだけコミュニケーションをとれるが、スタジオワークを円滑に行えない。	アーティストなどとコミュニケーションを取れず、スタジオワークを円滑に行えない。				
【教科書】 適時音響映像設備マニュアルを使用。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 実習参加度									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		実習・演習2			年度	2024
英語表記					学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評 価	日 記
1	ルーティング	マイクロフォンからスピーカーまでのルーティングを理解する	マイクの種類	マイクのことを理解し、適切に扱える		
			信号の大きさ	マイクレベル、ラインレベル、スピーカーレベルを理解する		
			ルーティング	マイクの信号をProToolsへ録音・再生して、信号の流れを理解する		
2	スタジオシステム	スタジオシステムを理解する	パッチベイ	既にあるパッチベイを見て、ルーティングを理解する		
			モニターコントローラー	インターナル、エクスターナルを理解する		
3	システム構築	スタジオ以外での場所でも録音を行えるようにする	システム構築1	録音する上で必要な機材を理解し選択することが出来る		
			システム構築2	ProTools HDXシステムを構築することが出来る		
4	セッティング1	レコーディングをする際のコントロールルーム側のセッティングを理解する	ミキサーのセッティング	録音を行う上でのミキサーの仕組みを理解する		
			ProToolsセッティング	録音に合ったProToolsのセッションを作成出来る		
			外部機器の接続	回線表に基づいたインサート機器やFXをパッチベイを用いて接続が出来る		
5	セッティング2	レコーディングをする際のブース側のセッティングを理解する	マイクのセッティング	回線表に基づいたマイクを的確にセッティングが出来る		
			マイク以外のセッティング	キューボックスや譜面台などのマイク以外の物を的確にセッティングが出来る		
6	セッティング3	アーティストを実際にお呼びし、セッティング・レコーディングを行う	回線チェック	適切なルーティングで回線を作れているか確認できる		
			サウンドチェック	適切な音を取音出来ているか判断出来る		
			録音	マルチマイク録音を行い、ProToolsのデータを整理、管理出来る		
7	ボーカルレコーディング	ボーカルレコーディングを円滑に行う	譜面・歌詞カード	譜面・歌詞カードを読み取り、必要な情報の確認、追加で記入ができる		
			録音	適切なボーカルの録音が出来る		
8	ステレオマイキング	ステレオマイキングの様々な手法を実践する	ステレオマイキング	複数のマイクスタンドを扱い、ステレオマイキングを可能とする		
			音の違い	様々な手法での音の違いを理解する		
9	ミキシング1	アナログ卓やProToolsを使い、ミキシングを行う	色々なエフェクター	エフェクターの効果を理解する		
			アナライズ	楽曲を聴き、楽器・定位・エフェクトを聴き取れる		
			ミキシング	アナログミキサーやProToolsでミキシングを行える		
10	マイキング研究1	アコースティックギターへの様々なマイキングを行う	マイキング	楽器に合ったマイクを選択、マイキングが出来る		
			ダビング	既に録音されている音とのバランスを取り、追加で録音出来る		
11	マイキング研究2	Drumsへの様々なマルチマイキングを行う	マイキング	楽器に合ったマイクを選択、マイキングが出来る		
			マルチマイキング	複数のマイクを扱い、適切なバランスを取ることが出来る		
12	マイキング研究3	多種類のサックスへのマイキングを行う	マイキング	楽器に合ったマイクを選択、マイキングが出来る		
			ダビング	既に録音されている音とのバランスを取り、追加で録音出来る		
13	弦楽器EDIT	フリーテンポで録音した弦楽四重奏の楽曲を理解し、編集を行う	EDIT	楽曲を指定された通りに編集ができる		
14	バンドレコーディング	バンドをお呼びし、円滑にレコーディングを行う	事前準備	当日の楽曲に合った回線表を作成することが出来る		
			サウンドチェック	楽曲に合った音を理解し、録音することが出来る		
			コミュニケーション	アーティストの方とコミュニケーションを取り、円滑にレコーディングを行える		
15	ミキシング2	ProToolsを使い、ミキシングを行う	ミキシング	楽曲に合った適切なバランス、エフェクトでミキシングを行う		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	実習・演習 2							年度	2024
英語科目名	Training and exercises 2							学期	後期
学科・学年	音響芸術科MAエンジニア専攻 1年次	必/選	必	時間数	180	単位数	6	種別※	実習
担当教員	丸山（由）・菱輪		教員の実務経験	有	実務経験の職種		MAエンジニア		
【科目の目的】 基本的な映像作品の制作過程を理解する。 幅広く映像作品のMA作業ができるようにする。									
【科目の概要】 スタジオシステムを理解し、作品づくりに向けた基本操作を学びます。									
【到達目標】 A：スタジオシステムを理解し、正しくセッティングする B：ProToolsの基本的操作を理解する C：作品に沿った選曲・効果ができる D：基本的なミキシング操作ができる F：映像作品の制作過程を体験し、チームワークを理解する									
【授業の注意点】 この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	ProToolsに録音した音をフェーダーに立ち上げることができる	マイクのLINEチェック及びProToolsへの送りを設定することができる	電源が投入でき、マイクのLINEチェックができる	電源が投入できる	正しく電源投入ができない				
到達目標 B	ショートカットを使用し、効率よく作業できる	録音再生などの基本操作ができる	ProToolsにVideoファイル正しいタイムコードで取り込むことができる	タイムコードを表示させ正しいセッション作成ができる	正しいセッション作成ができない				
到達目標 C	作品に沿った音楽・効果音の構成が考えられる	映像に合わせて音楽編集ができる	映像に合わせて音楽・効果音を貼り付けられる	音楽・効果音の素材をProToolsへ取り込める	音楽・効果音の選択ができない				
到達目標 D	作品に沿って適切に音量調整ができる	効果的に音楽・効果音を聞かせることができる	音の大きさを聞き分けフェーダー操作ができる	ナレーションを聞かせることができる	音のバランスが取れない				
到達目標 E	リーダーシップをとり、作品に積極的に取り組める	収録・編集などの行程が理解できる	チームとして協力して作品制作ができる	指示されたことを実行できる	チームワークが取れない				
【教科書】 適時、音響映像設備マニュアルを使用する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 実習参加度、レポートまた、演習は講義形式で行う。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		実習・演習 2			年度	2024
英語表記					学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ナレーション及びアフレコ収録(ブース編)	マイクセッティングができる	映像モニターの設置	モニターに映像を出すことができる	1	
			マイクスタンドの扱い方	正しくスタンドを使用できる		
			マイクのコネクション	マイクのコネクションを理解する		
2	ナレーション及びアフレコ収録(コントロールルーム編)	収録・再生作業のためのセッティングができる	マイクのコネクション	マイクのコネクションができる	1	
			カフシステム	カフシステムのセッティング及びチェックができる		
			リターンモニター	リターンモニターの仕組みを理解する		
3	ProToolsの基本	基本のセッティング及び操作ができる	セッション作成	MAで使用できるセッションが作成できる	2	
			ショートカット	作業で使用するショートカットキーを覚える		
			映像を取り込む	正しいタイムコードで映像を取り込める		
4	ProToolsでの収録	録音・再生ができる	I/O設定	入出力を正しく設定できる	2	
			録音	テスト・本番収録のセッティングができる		
			再生	収録した音を正しく再生できる		
5	選曲	内容に合わせた選曲ができる	ライブラリー	ライブラリーの使い方を理解する	2	
			選曲	シーンに合った音楽を探すことができる		
			取り込み	ライブラリーからProToolsに取り込める		
6	効果	内容に合わせた効果音を選べる	ライブラリー	ライブラリーの使い方を理解する	2	
			SE・ME	シーンに合ったSEを探すことができる		
			取り込み	ライブラリーからProToolsに取り込める		
7	編集	映像に合わせて編集することができる	カットに合わせる	映像のカット頭に音を貼れる	2	
			F1/F0/G1/C0	映像に合わせて編集操作ができる		
			音楽編集	尺に音楽を合わせることができる		
8	整音	同録の整理ができる	取り込み	映像に合わせて同録素材をインポートすることができる	2	
			聴き分け	1ch/2cnの音を聴き分ける		
			整音	必要な音かどうかを判断し、整理する		
9	コンソール	チャンネルセッティングができる	ProTools設定	コンソールへの出力設定ができる	2	
			グループ設定	ステレオグループが組める		
10	ミキシング	正しいフェーダー操作ができる	同録	同録を正しく扱える	2	
			ナレーション	ナレーションを正しい音量で聴かせることができる		
			フェーダー操作	番組に合ったミキシングができる		
11	企画制作	映像制作の基礎を学ぶ	制作進行	企画書・画コンテ・番組表などを作れるようになる	2	
			ロケハン	撮影場所の選定、下見ができる		
			スケジュール・予算管理	予算内でスケジュール通りに番組制作できる		
12	プリプロ(カメラ)	撮影機材の使い方を習得する	カメラ	カメラの使い方を理解する	2	
			照明	簡単な照明が当てられる		
			接続	音声機材との接続ができる		
13	プリプロ(音声)	音声機材の使い方を習得する	マイク	外録用マイクのセッティングを理解する	2	
			ミキサー	外録用ミキサーの使い方を理解する		
			接続	カメラ機材との接続ができる		
14	プリプロ(撮影本番)	チームで協力し、本番収録することができる	準備	各機材を正しくセッティングし、収録準備ができる	2	
			チームワーク	各セクションで協力して収録できる		
			番組表	番組表通りに時間内に撮影を終わらせる		
15	ポスプロ	編集・MA	編集	adobeソフトを使用し映像編集ができる	2	
			選曲・効果	作品に合った選曲・効果ができる		
			MA	同録と音楽SEのバランスが取れる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	実習・演習 2							年度	2024
英語科目名								学期	後期
学科・学年	音響芸術科ラジオスタッフ専攻 1年次	必/選	必	時間数	180	単位数	6	種別※	実習
担当教員	坂下冬樹・福士和宏・横倉直・松本蓮・濱野歩		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ディレクター・ミキサー	
【科目の目的】 基本的なラジオ番組の制作過程を理解する。 番組制作に付随する番組企画の立案や、企画書作成手順を理解する。									
【科目の概要】 スタジオシステムを理解し、作品づくりに向けた基本操作を学びます。									
【到達目標】 A：スタジオシステムを理解し、正しくセッティングする B：ProToolsの基本的操作を理解する C：番組に沿った選曲やジングル制作ができる D：基本的なミキシング操作ができる E：出演者・スタッフ間の情報共有をはじめとしたコミュニケーションの取り方を理解する									
【授業の注意点】 音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	ProToolsに録音した音をフェーダーに立ち上げることができる	マイクのLINEチェック及びProToolsへの送りを設定することができる	電源が投入でき、マイクのLINEチェックができる	電源が投入できる	正しく電源投入ができない				
到達目標 B	ショートカットを使用し、効率よく作業できる	録音再生などの基本操作ができる	ProToolsに音素材データを取り込むことができる	正しいセッション作成ができる	正しいセッション作成ができない				
到達目標 C	番組に沿った選曲・効果音・ナレーションを入れた適切な編集ができる	番組に沿った選曲・効果音・ナレーションを入れた編集ができる	ナレーションと音楽・効果音を貼り付けられる	ナレーション・効果音・音楽をProToolsに取り込める	音楽・ナレーション・効果音の選択ができない				
到達目標 D	番組内容に沿った適切な音量調整ができる	音楽・効果音・ナレーションを聞かせることができる	音の大きさを聞き分けフェーダー操作ができる	ナレーションを聞かせることができる	音のバランスが取れない				
到達目標 E	番組出演者・スタッフと次を予測したコミュニケーションを段取りよく取り、情報共有ができる	番組出演者・スタッフとコミュニケーションを取り、情報共有ができる	番組出演者・スタッフとコミュニケーションが取れる	指示されたことを実行できる	チームワークが取れない				
【教科書】									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									
実習参加度、レポートまた、演習は講義形式で行う。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		実習・演習 2			年度	2024
英語表記					学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評 価	日 付
1	ラジオ業界研究とスタジオ機器操作説明	ラジオ業界研究と進路について、使用スタジオの操作に対する理解を深める	ラジオ業界研究	ラジオ業界に存在する職種への理解する		
			ラジオの歴史	ラジオの始まり、そして成り立ちを理解する		
			使用スタジオ操作説明	実習で使用するスタジオセッティングができる		
2	企画書の作成	企画書の作成（10分番組）	番組企画の意図	ラジオ番組制作の意図を理解する		
			番組企画の概要	ラジオ番組制作の概要がまとめられる		
			進行フォーマット	番組全体と各パートごとの流れを書き出すことができる		
3	進行台本・キューシート制作	進行台本・キューシート制作（10分番組）	台本作成	番組の各コーナー内容を台本に落とし込める		
			キューシート作成	番組の進行をキューシートに落とし込める		
			資料作成	本編に付随する参考資料をまとめられる		
4	ジングル制作	ジングル制作（10分番組）	I/O設定	入出力を正しく設定できる		
			録音	テスト・本番収録のセッティングができる		
			編集	収録した音を編集できる		
5	音素材準備	音素材準備（10分番組）	ライブラリー	ライブラリーの使い方を理解する		
			選曲・SE	シーンに合った音楽を探すことができる		
			取り込み	ライブラリーからProToolsに取り込める		
6	本番	手順通りに収録を進められる（10分番組）	セッション作成	ラジオで使用するセッションが作成できる		
			ショートカット	作業で使用するショートカットキーを覚える		
			音源を取り込む	出演者のマイクやBGM、音楽などを録音できる		
7	編集/試聴会	指定の時間におさまるよう編集ができる（10分番組）	整音	不要なノイズを取り除いたナレーション編集ができる		
			BGM	ナレーションに合わせたBGMの選曲、音量バランスが取れる		
			音楽編集	F0などを使い、効果的に音楽を使うことができる		
8	企画書の作成	企画書の作成（30分番組）	番組企画の意図	ラジオ番組制作の意図を理解する		
			番組企画の概要	ラジオ番組制作の概要がまとめられる		
			進行フォーマット	番組全体と各パートごとの流れを書き出すことができる		
9	進行台本・キューシート制作	進行台本・キューシート制作（30分番組）	台本作成	番組の各コーナー内容を台本に落とし込める		
			キューシート作成	番組の進行をキューシートに落とし込める		
			資料作成	本編に付随する参考資料をまとめられる		
10	ジングル制作	ジングル制作（30分番組）	I/O設定	入出力を正しく設定できる		
			録音	テスト・本番収録のセッティングができる		
			編集	収録した音を編集できる		
11	音素材準備	音素材準備（30分番組）	ライブラリー	ライブラリーの使い方を理解する		
			選曲・SE	シーンに合った音楽を探すことができる		
			取り込み	ライブラリーからProToolsに取り込める		
12	本番	手順通りに収録を進められる（30分番組）	セッション作成	ラジオで使用するセッションが作成できる		
			ショートカット	作業で使用するショートカットキーを覚える		
			音源を取り込む	出演者のマイクやBGM、音楽などを録音できる		
13	編集/試聴会	指定の時間におさまるよう編集ができる（30分番組）	整音	不要なノイズを取り除いたナレーション編集ができる		
			BGM	ナレーションに合わせたBGMの選曲、音量バランスが取れる		
			音楽編集	F0などを使い、効果的に音楽を使うことができる		
14	P A	P Aセッティングを理解する	準備	各機材を正しくセッティングし、収録準備ができる		
			チームワーク	各セクションで協力して収録できる		
			香盤表	香盤表通りに時間内に収録を終わらせる		
15	P A	セッティングしたP Aで、デモ番組の進行を行う	打ち合わせ	必要な資料や素材集め、進行の確認、段取りができる		
			選曲・効果	作品に合った選曲・効果ができる		
			収録	同録と音楽SEのバランスが取れる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等